

1 公務員について

公務員は、国の機関に勤務する国家公務員と地方公共団体に勤務する地方公務員の二種類に分けられます。また、独立行政法人等の公的機関からの募集もあります。

国家公務員及び地方公務員は、それぞれの勤務の内容等により、試験の種類や試験問題、難易度、出題科目が異なります。仕事の内容と試験の内容を十分に研究し、受験する試験区分を決めましょう。

①公務員採用試験の種類

公務員採用試験の種類は、概ね次の表のとおりです。これ以外の試験種もあります。

区 分		試 験 の 区 分
国 家 公 務 員	総 合 職	院卒者試験 行政、人間科学、デジタル、工学、数理科学・物理・地球科学、化学・生物・薬学、農業科学・水産、農業農村工学、森林・自然環境、法務（新司法試験合格者対象）
		大卒程度試験 政治・国際・人文、経済、人間科学、デジタル、工学、数理科学・物理・地球科学、化学・生物・薬学、農業科学・水産、農業農村工学、森林・自然環境、教養、法律
	一 般 職 試 験 大 卒 程 度 試 験	行政、デジタル・電気・電子、機械、土木、建築、物理、化学、農学、農業農村工学、林学
	専 門 職	皇宮護衛官（大卒程度試験）、法務省専門職員（人間科学）、外務省専門職員、財務専門官、国税専門官、食品衛生監視員、労働基準監督官、航空管制官、海上保安官
	特 別 職	参議院・衆議院事務局職員、裁判所職員、防衛省専門職員、自衛隊幹部候補生など
地 方 公 務 員	上 級	（各地方団体によって異なる。）行政・学校事務、警察事務、機械、電気、化学、薬剤師など
	中 級	一般事務、保育士、司書、栄養士、学校事務、農業土木、臨床検査技師など
	初 級	行政事務、学校事務など
	そ の 他	警察官など

②採用試験の流れ

公務員として採用されるには、採用試験に合格しなくてはなりません、民間企業の就職試験と違うのは「試験合格」＝「採用」とならない点です。試験に合格すると「採用候補者名簿」に登載され、公務員として採用される資格を得たのであって、採用されたことにはならない点に注意が必要です。

各官庁は、「採用候補者名簿」から採用者を選び決定するというのが、公務員採用試験の原則的なシステムです。

【採用内定】

国家公務員の場合は、各官庁からの面接等を経て、採用内定をいただくことが必要です。

地方公務員の場合は、採用予定者数に合わせて合格者を出すので、最終合格＝採用内定となる場合がほとんどです。

参考：公務員採用試験の大まかな流れ（2025年）

	国家公務員		地方公務員 (都道府県・政令指定都市など)
	総合職	一般職	
3月	受付期間：2/3～2/25 一次試験：3/16	受付期間：2/20～3/24	
4月	二次試験(筆記)：4/13		受付期間
5月	二次試験(人物)：4/21 ～5/16		
6月	合格発表：5/30	一次試験：6/1	一次試験
7月	官庁訪問	官庁訪問 二次試験：7/9～7/25	二次試験
8月		最終合格：8/12 ↓	最終合格

*各試験職種によって、スケジュールが異なります。必ず各自で確認してください。

④受験対策等

公務員試験は、年々厳しさが増す傾向です。この難関を突破するためには、人より早く勉強を始めることが大切です。できるだけ早く次のことに取りかかりましょう。

- ・まずは、各種の試験の受験資格や試験科目を知らなければなりません。公務員試験雑誌や当該（最新）年度の受験ガイドに目を通しましょう。複数の公務員試験を併願する場合が一般的です。最初から受験科目を絞り込むと、併願先が狭くなります。
- ・自分の目指す試験が定まったら、過去の問題に目を通し、その試験の出題傾向を分析することが大切です。関係の出版社等の「合格情報」シリーズなどに過去の問題が出ています。「～の傾向と対策」というシリーズもよいでしょう。傾向を分析して出題の難易度を知ることができます。
- ・教材として、基本書、過去の問題集等はそろえておきたいものです。合格者の平均勉強期間は7～8ヶ月、1日の平均勉強時間は3～4時間といえます。自分の得意分野とそうでない分野を知ったら、長期用の科目と短期用の科目に分けて、計画的に着実に進めていきましょう。自分の到達点を知るため、また、試験の雰囲気慣れるためにも、模擬試験を積極的に受けた方が良いでしょう。
- ・教養試験の一般知能分野は時間をかけて勉強し、一般知識分野は短期集中型の学習が合っているとされています。一般知能分野は、出題パターンを理解して解答のコツをつかむのに時間がかかります。一般知識分野で選択解答制が採用されている試験では、ますます一般知能分野のウェイトが高まってきていて、落とすことはできません。暗記科目が多い一般知識分野は短期集中といっても、中盤に何度も基礎固めをしておきましょう。
- ・新しい法律や法制度ができたり、重要な裁判例（最高裁大法廷判決）が出たときは、その都度きっちりと内容を理解しておきましょう。また、時事に関する諸問題には、新聞を読むなどして、常に新しい情報に敏感であることが大切です。地方公務員の場合には、特にその地域、自治体に係る課題が出されています。

- ・教養、専門の択一式の解答に慣れておくことも必要です。選択には技術的な側面もあります。短時間で正確に答えられるよう選択のパターンにも慣れておきましょう。
- ・論文、小論文、作文など記述式の試験には十分な備えが必要です。短いテーマについて普段から書く練習をしましょう。構成の仕方や表現の仕方など十分な訓練が必要です。また、誤字・脱字にも注意しましょう。
- ・近年、人物重視の傾向が高まっています。個別面接や集団討論などの対策をしっかりと立てておきましょう。
- ・常日頃から社会の事象について考え、自分の意見をもつよう心がけておきましょう。

◎独立行政法人・特殊法人等職員の採用

独立行政法人・特殊法人等はそれぞれの根拠法に基づき設置されています。採用方法は機関により様々であり、企業等と同様に就職情報サイトやウェブサイト等で応募を受け付けている機関もあれば、国家公務員試験1次試験合格者からのみ採用している機関もあります。採用試験の内容も各機関により様々ですので各機関のウェブサイトなどで採用情報をこまめにチェックしましょう。

◎国立大学法人等職員の採用

国立大学法人等職員は独自の試験により採用されます。全国を7地区に分け、各地区ごとに一次試験（筆記）が行われ、二次試験（面接等）は各地区の国立大学法人等が個別で実施しています。また、独自の試験を実施して採用を行っている大学もあります。

<ご案内>

公務員試験対策講座（有料）も開講していますので、必要に応じてご活用下さい。
（共催：就職・キャリア支援センター / 富山大学生生活協同組合）



2 教員について

教員になるためには、学士・修士等の学位を有するとともに、自身が目指す校種等の教員免許状を取得することが必要です。

各自治体や私立学校が行う教員採用のための検査・試験等は、各校種・教科等の区分ごとに行われることが多いので、自身がどの校種・教科等の教員を目指すかをはっきりさせておくことが大切です。

①公立学校の教員

公立学校の教員は、各都道府県及び政令指定都市等の教育委員会が行う「教員採用選考検査」又は「教員採用候補者選考試験」などにより採用されます。したがって、志望者はすべてこの教員採用選考試験を受けることが必要です。

試験方法は、各自治体によって異なりますが、1次・2次による選考方法をとっているところが多いようです。

(ア) 募集要項等の配布

募集要項等の公表は、各自治体によって、その時期も方法も異なります。

志望する都道府県及び政令指定都市等の教育委員会のウェブサイト等をこまめに確認し、受験資格、募集校種、試験日程、試験内容、出願手続きなどを早めに確かめておきましょう。

(イ) 試験日

これまでは多くの自治体が7月を中心に1次試験（筆記・実技など）を行い、後日、1次試験の合格者に対して8月から9月を中心に2次試験（面接・論作文など）を実施していましたが、教員採用選考試験の早期化が進み、申込や試験の時期が前倒しとなる傾向があります。常に最新の情報を確認しましょう。

(ウ) 試験内容

試験内容は筆記試験、論作文、実技試験、面接及び適性検査などが標準的です。

◎筆記試験

筆記試験は一般教養、教職教養（教職専門）、専門教科などが行われるのが一般的です。

- 1) 一般教養は人文科学、社会科学、自然科学の領域にわたって出題されます。
- 2) 教職教養は、教育原理、教育心理、教育法規、教育史、教育時事などから出題されます。
- 3) 専門教科は、受験する学校種（小・中・高・特別支援など）、免許教科別（国、数、英など）に実施されます。

◎論作文

論作文は人物重視の傾向が強まる中、面接試験とともに評価のウエイトが高くなってきています。

◎実技試験

実技試験の実施方法は様々ですが、内容は体育実技と各専門教科実技（音楽、美術、家庭、英語など）に大別されます。

小学校では、体育実技（水泳など）や音楽（課題曲の演奏など）及び英語の3教科が多く、中学校・高等学校では各専門教科について行われます。

なお、実技試験が廃止されている自治体もあるので注意が必要です。

◎面接－口頭試問

面接はますます重要視されており、筆記試験重視から人物重視へと移行しています。形式は、個人面接、集団面接、集団討論、模擬授業などで、最近の傾向として集団討論を課すところが増えています。面接では明るくハキハキとした態度で臨みましょう。

◎適性検査

適性検査は、クレペリン検査及びYG検査の実施が多いようです。

クレペリン検査（作業検査法）は、一定時間、連続的な加算作業を課し、作業経過と結果から性格適性を見る方法です。YG検査（質問紙法）は、質問項目に答えさせ、協調性・活動性・情緒特性などの性格特性を見る方法です。

(エ) 合格から採用まで

2次試験の合格者には、教員候補者の選考に関する最終判定が下されます。判定は書類審査と試験結果などを総合判断して、合格*、補欠、不合格などの決定がなされます。合格者は、採用に対しての一定の基準に達したとみなされ、「公立学校教員採用候補（予定）者名簿」に登載されます。この名簿により教員採用を行います。

*富山県は、「名簿記載A」と「名簿記載B」に分けられます。

②公立学校の講師（臨任講師・非常勤講師等）

出身地等の公立学校の講師を希望する場合は、出身地等の教育委員会等に応募する必要があります。

自治体によって、登録の方法や時期が異なるので、早めに各教育委員会のウェブサイト等で確認しましょう。

③私立学校の教員

私立学校の教員採用は、次のようなルートがあります。

(ア) 大学等への求人

(イ) 各自治体の私学協会への登録

- ・ (ア) の場合は、それに基づいて応募し、その学校の行う採用試験を受け、合格することで採用となります。
- ・ (イ) の場合は、各県の私学協会が「私立学校教員適性検査」を行いますので、それを受検すると名簿登録され、私立学校が採用を検討する資料となります。

いずれにしても、私立学校の教員採用への道も選択できるよう自分で情報収集や就職活動をすることが必要です。

④受験対策等

【情報の収集】

教員採用試験は都道府県・政令指定都市等ごとに行われ、採用予定人数や1次試験・2次試験の内容・傾向等は自治体ごとに異なる点多々あります。

自分が受験する自治体の特徴をしっかりと把握し、ポイントを絞った対策を立てましょう。それらについての情報を的確に収集するために、専門の試験雑誌や情報誌（協同出版「教職課程」や時事通信社「教員養成セミナー」など）を参考に傾向等の分析を行い、ゴールを見据えて逆算的な考えで取り組むことを勧めます。

3 就職活動管理シート

就職情報サイトID・パスワード管理表

就職情報サイト	ID/パスワード	備考
	ID: PW:	

企業エントリー管理シート

日付	企業名	企業マイページID/パスワード	備考
／		ID : PW :	
／		ID : PW :	
／		ID : PW :	
／		ID : PW :	
／		ID : PW :	
／		ID : PW :	
／		ID : PW :	
／		ID : PW :	
／		ID : PW :	
／		ID : PW :	

4 その他

◎データベースの利用について

学内のネットワークから利用できるデータベースで、過去の新聞・雑誌等の情報収集が可能です。

トップページ>学部・大学院・施設>附属図書館>データベース等一覧
URL:<https://www.lib.u-toyama.ac.jp/db>

【学内で利用できる主なデータベース】

・日経テレコン

日本経済新聞社が提供する情報検索サービスです。日経4誌（「日本経済新聞」、「日経産業新聞」、「日経流通新聞 MJ」、「日経金融新聞」）の全文記事検索のほか、企業検索、人事検索、きょうの新聞の閲覧などが可能です。

・朝日新聞クロスサーチ

朝日新聞社のオンライン記事データベースです。「朝日新聞」、「週刊朝日」、「AERA」、「朝日新聞縮刷版」、「明治・大正期の紙面データベース」、「知恵蔵」、「人物データベース」、「朝日新聞歴史写真アーカイブ」が利用可能です。

・JapanKnowledge（ジャパンナレッジ）

百科事典をはじめとする、日本有数の辞書・事典を中心に構築された知識データベースです。『週刊エコノミスト』（毎日新聞社）、『会社四季報』（東洋経済新報社）などのコンテンツも利用できます。

◎卒業・修了者に対する支援

就職・キャリア支援センターでは、卒業・修了者からの相談も受け付けていますので、気軽に来訪してください。

また、遠方にお住まいで来学が困難な場合は、地元の新卒応援ハローワークやジョブカフェの利用をお勧めします。